

災害の自助・共助・公助



大きな災害が起きたときは、交通網の寸断、通信手段の混乱、火災と救助などが同時多発するため、市や県、消防、警察はすぐにはすべての現場には対応できません。

災害から自分と家族、地域を守り、被害を軽減するためには、個人の備えの「自助」や、住民同士が助け合う「共助」がとても重要です。

自助

自分と家族の身の安全を守ることです。

事前に、家具などの転倒防止や個人住宅の耐震化、水や食料の家庭での備蓄などを行います。

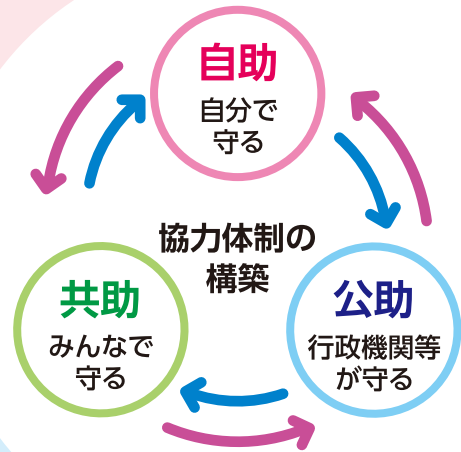
共助

地域で協力して助け合うことをいいます。

災害時は、下敷きになった人を一刻も早く助け出す救助や病院への搬送、津波避難の声がけなどを行います。災害後は地域の被災者支援を行います。

公助

市や消防、県や警察、自衛隊といった公的機関による救助・援助です。市は主に情報の集約や発信、避難所等の確保、緊急輸送路の確保・整備、危険箇所への対応、必要な物資や食料の確保を行います。



自助・共助・公助の連携が必要です

気象庁で、注意報や警報が発表されたときの自助

台風や大雨は気象情報に十分注意し、万全の対策を取ることが重要です。

- ① テレビやラジオなどの気象情報に注意します。
- ② 市や防災関係機関の情報をよく聞きます。
- ③ 停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意します。
- ④ 非常用持出袋を用意し、すぐ避難できるようにします。
- ⑤ 早めに帰宅し、家族と連絡を取り、非常の事態に備えます。
- ⑥ 飲料水や食料は3日分、できれば1週間分用意しておきます。
- ⑦ 浸水が想定されている区域は、浸水に備えて家具等を高い場所に移動させておきます。
- ⑧ 家の雨どいや排水路の落ち葉等は片づけておきます。
- ⑨ 農業用ビニールやトタン、看板、養生シート、テレビのアンテナを固定しておきます。
- ⑩ 危険な場所にいる人は、いつでも避難できるように準備しておきます。

